

平成27年度

事業報告

社会福祉法人大和久福社会

平成27年度事業報告

1. 法人全体の流れ

主体施設整備が完成して3年が経過し、施設及び設備の有効利用に工夫改善がなされ、利用者が楽しく、安全な生活が営まれるようになりました。

障害者自立支援法施行後9年が経過し、この法律により利用、運営構造の大変革に直面し、利用形態、組織体制、勤務形態、支援事務、新事業への取り組み等幾多の課題を乗り越えてきました。

職員も120名を超え、大規模施設となり、障害児者の自立を目指し、目的達成のために、計画性のある事業、各業務の確認（職務、職責、連携）と意欲の高揚並びに職員間の意志の疎通を図りました。

社会福祉法人制度改革に伴う社会福祉法人制度を巡る状況、平成28年4月1日施行の社会福祉法等の一部を改正する法律案の概要、平成29年4月1日施行の社会福祉法人制度の改革について、外部研修に参加し、内容の把握と改正の流れを確認しました。

また、施設運営等の規定改正により、安定性のある有能な人材確保、運営組織の整合性、処遇の改善が図られるよう努めました。更に、本法人の重要課題である利用者並びに地域障害者の重度化、高齢化の対応を果たすべく、ホーム陽だまりの増設、仮称アイリスの改築及び大和久鳥山寮の改築並びに地域生活支援拠点事業について検討を行いました。

このように、当大和久福社会は、利用者の高齢化と障害の重度化に対応し、常に利用者の幸せと将来像に向かって、組織・財務の基盤充実と支援環境の整備に努めてきたところです。

(前期)

組織の新体制として、新たに新卒者4名を迎え入れ、利用者支援の強化に取り組みました。また、6月7日には、創立記念を祝う会を実施し、模擬店、カラオケ大会等を行い、利用者、保護者、職員等皆で法人設立を祝いました。7月9日には、大和久学園の運営について、県検査指導班並びに県障害福祉課による指導監査（現地指導）が行われました。市ボランティア団体、保護者会の協力により施設内の環境整備に取り組みました。7月26日には、栃木県障害者卓球大会に12名の利用者が出場し、個人並びに団体と優秀な成績を収めることが出来ました。

(中期)

参加恒例的那須烏山市いかんべ祭りいかんべパレードに大和久福社会神輿が参加しました。

大和久学園、大和久育成園、グループホームの利用者、保護者及び職員との交流、親睦を深めるための旅行及び食事会等を実施しました。

10月4日に第4回大和久福社会祭を実施し、えりのあさん、倉沢大樹さん、那須烏山市ふるさと太鼓さん、ラフダイヤモンドさん、チアリーディングさんによるミニコンサートも開催され、利用者の充実したお祭りとなりました。

10月27日に栃木県障害者スポーツ大会に参加し、スポーツを通じて県内の施設及び利用者との交流を図り、各種競技に参加し利用者が活躍しました。

11月には、本体施設において、総合防災訓練の実施並びにグループホーム太陽の家においては、地域の小倉地区防災訓練に参加をしました。

事務の効率化を図るために、本体施設内にネットワークシステムを構築し、パソコンの

活用及びデータの共有並びに管理を行いました。

(後 期)

12月6日に行われた那須烏山市マラソン大会において、恒例のウォーキングの部に利用者が参加し、完走をしました。更に12月12日には高根沢町において、障害者のマラソン大会「もう一つのマラソン大会」に参加しました。また、12月には、各部署において、クリスマス会を実施し、季節の行事を楽しみました。当福祉会グループホーム利用者においては、忘年会を実施し一年の反省を行いました。大和久学園利用者2名の成人者がおり、大人の仲間入りを果たしました。

那須烏山市駅伝大会において、当大和久福祉会が中継点となり、選手関係者に対し施設開放を行い、また、利用者たちによる沿道応援を行いました。

仮称アイリス改築予定地に伴う隣接山林の土地購入をし、改築計画の準備に努めました。

2月には、総合防災・避難訓練として、消火訓練及び煙体験を行いました。3月6日には、理事長が講師となり、大和久福祉会の現状と展望について、保護者会、後援会、職員参加による大和久福祉会保護者会主催の交流研修会が行われました。3月10日には、栃木県立南那須特別支援学校小学部1名、中学部2名、高等部1名の計4名の児童が卒業しました。

広報活動の一環として、ホームページ更新を行いました。

2. 支援活動の強化

(1) 個別のニーズに適應した個別支援計画を策定し、サービスの質の向上に努めました。

①サービスの質が求められる今般において、個別支援計画の内容は元より、個人の尊厳・安全・安心を重視することで、利用者の障害の特性及びニーズ等に合う充実した個別支援計画の策定を図りました。

(2) 利用者の安全を確保し、安心してサービスを利用して頂くため、利用者の尊厳を維持できるサービスの提供に努めました。

①災害時に適切な対応がとれるよう、防災訓練を踏まえ、火災、震災、風災時の対応、日常点検及び毎月の消防設備点検等の徹底に努めました。

②事故防止、感染対策、衛生等の内容の更なる充実を図ると同時に事故及び感染の防止に努めました。

(3) 快適な生活環境の提供に努めました。

①老朽化した備品等の検討を行い、業務上不可欠な物の入れ替えを図り業務の効率化を図りました。

(4) 障害者虐待防止法・個人情報保護法・苦情解決等の更なる周知徹底及び意識の維持に努めました。

①研修会の参加により、知識のマンネリ化を防止し、常に緊張感を維持できるように努めました。

(5) 利用者・家族・地域との交流に努めました。

①保護者、地域、ボランティア等との意思の疎通に努め、協力体制の確立を図りました。

②利用者や家族とのコミュニケーションがとりやすい雰囲気を形成し、相談しやすい環境づくりを心掛け、苦情の防止に努めました。

3. 快適な施設の環境確保及び設備の整備等

(1) 当法人の立地・運営環境を生かした経営を行い、合理的な運営をすることで併設

環境の利点を活用しました。

- ①経費の一括化を図ることで経費の軽減に努めました。
 - ②計画的な事業所間の補填により、事業所の資金の安定化を図りました。
 - ③設備導入、勤務工夫検討により、人的面においても効率化及び経費削減を図りました。
- (2) 節電対策として、光熱水費の無駄の削減・温度調整、温暖化対策と同時に経費削減を図りました。
- ①夏季・冬季時における冷暖房の推奨温度での調節により、温暖化防止対策を図ると同時に経費削減に努めました。
 - ②電力モニタシステム導入による使用量の監視により、電気の削減を図りました。
- (3) 計画的な修繕計画を策定し、修繕の同時多発を抑制することで、無理のない施設経営に努めました。
- ①利用者の高齢化に対するアイリス、花梨、第4大和久寮の施設整備の検討を行いました。
 - ②修繕に多額の費用を要する場合は、必要に応じ積立金の計上を計画的に行いました。
- (4) 老朽化に伴う各所修繕及び備品整備等
- | | |
|-------------------------|------------|
| ①大和久育成園こぶし棟周りコンクリート舗装工事 | 950,000円 |
| ②大和久育成園こぶし居室フローリング工事 | 2,181,600円 |
| ③仮称アイリス建設用地購入 | 793,000円 |
| ④ネットワークシステム構築 | 730,316円 |
- (5) 環境美化、緑化推進
- ①良好な環境を維持・促進するため、持続的かつ計画的な植木や草花の手入れ等の整備を行いました。

4. 開かれた施設を目指した環境整備

- (1) 地域支援事業の推進と地域交流の積極参加をしました。
 - ①居宅介護、重度訪問介護及び移動支援のニーズ調査並びに推進を行いました。
 - ②短期入所事業及び日中一時支援事業の充実に努めました。
 - ③地域行事への積極参加をしました。
 - ④各種団体及びボランティアの受入と交流の充実に努めました。
- (2) 情報の開示、広報活動の充実
 - ①施設活動の成果の発表の場の確保に取り組みました。
 - ②広報誌の充実と施設概要の活用に努めました。
 - ③利用者の活動状況、施設の記録の整備に努めました。
 - ④経営状態の透明性を図るため、インターネット等の活用により、ホームページの整備を図り、適宜情報の一般公開を行い、開かれた法人作りに努めました。

5. 職員の意識の高揚と資質の向上

- (1) 役職者の能力・責任感の向上を図りました。
 - ①役職者としての役割及び責任の認識徹底を図りました。
- (2) 法人の人材育成のため、施設内外の研修を行い、環境の変化に適應できる支援や個別支援計画、役割に応じた行動力の発揮等できる人材育成に努めました。
- (3) 職務の集中化を回避し、急な退職や人事異動に対応できる体制の整備に取り組みました。

- ①一人だけが業務を把握する状況を作らないよう取り組みました。
 - ②全ての業務をチームで行うよう取り組みました。
- (4) 内部統制機能の強化を図りました。
- ①適正な事業運営が継続できるよう内部チェック機能の強化を図りました。
 - ②法令遵守、規程に則り業務管理体制の徹底を図りました。